

映画視聴の若年者タバコ意識への影響調査

市川健也 市川紘 岩河千栄 下平健太郎
高橋愛 原一彰 日野麻世 村前直和

[背景・目的]

昨年度の本実習調査の結果、健康増進法施行の前後で、本邦で製作された映画には特に喫煙シーンが登場する作品があることが明らかになった。それらの作品は特に青少年をターゲットとするものであったため、視聴したものの喫煙観へ影響し、喫煙開始動機となりうる、もしくは喫煙開始に影響するという仮説が立てられた。そこで、高校生を対象に、喫煙シーンを含む映画視聴の有無及び喫煙経験や喫煙に対する意識を調査し、仮説を検証した。

[方法]

高知県内の四つの高校に通う高校生（総対象者数 1,900 名）に対して自記式アンケート調査を行った。有効回答は 1695 人で、有効回答率は 89.2%であった。アンケート作成に関して、映画の喫煙の影響を調査するために、現在の喫煙状況、喫煙に対する意識、友人、家族の喫煙者の有無などを聞いた。映画への質問、映画と喫煙に関する質問、喫煙に関する質問に大別し、設問は参考文献（J.D.Surgent et al. Pediatrics 2005）を参考にして作成した。

具体的な映画などのサンプルとして、昨年度の調査を元に、喫煙のきっかけとなる可能性の高い映画、及び俳優を選んだ。アンケートの解析には SPSS を用いた。

[結果・考察]

アンケートの結果から、映画の喫煙シーンは喫煙の開始に関係する要因の一つであるのではないかと考えられる。現在喫煙している人は、これからも吸い続けたいと考えている人が多く、さらに、いざ喫煙をやめたいと思ってもなかなかやめられないという意見もあった。よって、喫煙率を下げるためには吸い始めないことが重要であり、未成年者に対する喫煙開始を阻止するために、映画の喫煙シーンへの対策も必要ではないかと考えられる。